(様式 2)

平成 14 年度 次世代 I T を活用した未来型教育研究会初事業

実施報告書

1 . 学校名 岐阜県川島町立川島小学校

2 . 実施内容

研究実施計画「わかる授業・楽しい授業」にのっとり実践した。

全校研究会（算数科部）の実践

単元名：2年生「ひきざん」において、ねらい「繰り下がりが2回ある引き算の筆算をするのはどうしたらよいか」の実践を通して、繰り下がりが2回あっても、一つ上の位から10かりてこればよいことに気がつき、計算の仕方を考える授業を行った。

そのさい、1回繰り下がるとき、一つ上の位から10借りてきたことを思い出し、今回も引けない場合、その一つ上の位から10借りてこればいいのではないかと、予想を立てた。そこで、円図や筆算で児童は自分の考えを深めていった。最後の段階で、円図の操作や、筆算の進め方をデジタルコンテンツで作成し、プロジェクターで拡大投影した。ある児童がその、映像を見ながら説明をし、全体で確認をした。

全校研究会（社会科部）の実践

単元名：4年生「私たちの県」において、ねらい「そこで、実際に現場に行き、美濃焼を体験したり陶芸家の丹羽さんに直接話を聞いたりする」実践を通して、美濃焼を受け継いでいこうとする努力や、陶芸家・窯元それぞれのこだわり・工夫があることに気づく授業を行った。

そのさい、陶芸家の方がどんな気持ちで作品を作っているか考え始めた。そこで、作陶を行っている時の写真（目、手先、姿）をプロジェクターで拡大投影し、資料として読み取りをさせた。児童は、「目が手元をじっと見ているのは、正しい形で作りたから」「脇を締めてじっとしているのは、形を崩さないようにしているからだ」と自分の意見を資料と関連づけて言ったり、仲間の意見が今どの部分のことを言っているのか理解しながら聞いたりすることができた。

3 . 実施時期

算数科部の実践・・・10月

算数科部，社会科部・・・12月

4 . 成果と課題

プロジェクターを使うことで、資料の共有化ができることがわかった。

5 . 今後の方向

教室内1パソコン、1プロジェクターによる授業を推進していく。

資料，プリントの印刷ができる環境を整える。